

# 全国 保健師長会 だより

## 青森県支部研修会報告

平成28年度青森県支部は、昨年度より会員3名増の66名でスタートしましたが、市町村会員の加入率が52・5%と低いことから、市町村会員の拡大が課題となっております。そこで、拡大を視野に入れ開催した、2回の研修会について報告します。

第1回研修会は、平成28年6月4日(土)、県支部の総会と併催しました。介護保険部門で働く保健師に対応した内容や全国保健師長会の活動を会員に周知する機会としたため、2つのテーマで講演を行い、31名(会員28名、非会員3名)が参加しました。

1つ目は、はちのへファミリ

## 中国・四国ブロック研修会報告 「元氣と「笑顔」をキャッチフレーズに!

平成28年度ブロック研修会は、テーマを「保健師の人材育成の構築及び保健師活動の可視化と質の向上に向けた取り組み」地域に責任をもった保健師活動を行うには「〜と題して、8月27日(土)、広島市東区総合福祉センターにおいて開催、過去最多の103名の参加がありました。

まず、全国保健師長会の山野井副会長から当会の活動方針等の説明のあと、「保健師人材育成体制の構築の推進について」キャリアアラダー、パスの作成と活用」と題して講演をいただき、管理的立場、統括的な役割を担う保健師に求められる能力は、職務経験や研修等を通して意識的、計画的に習得することが必要である。また、いま、大切なことは、保健師活動の原点に立ち返り、地域に責任をもった住民主体の活動を進めていくこと、管理期の保健師が身につけるべき視点のほか、エールもいただきました。参加者からは「保健師

## 平成28年度

# 青森県支部、中国・四国 ブロック研修会報告

全国保健師長会 会長 青柳 玲子

クリニック院長の小倉氏から「看取りから見える在宅医療の現状と課題について」と題して講演をいただきました。今後は施設を含めた在宅医療を考える必要があり、施設での看取りを推進するために『施設でできる在宅医療と看取り』の冊子を作り普及啓発を行っていることや、在宅医療を推進するためには、多職種で話し合える関係づくりが重要であることが話され、会場からは「地域で訪問診療してくれる医師はどれくらいいるのか」等の質問が出されました。

次に、全国保健師長会市町村部会長の飯田氏から「全国保健師長会活動の最新情報」と題して講演をいただきました。大規模災害における保健師の活動マニュアルの活用や統括保健師の重要性、保健

活動の可視化について考えてみたい」「業務全体の見直しや人材育成の参考になった」等の感想がありました。

次に3題の実践報告がありました。①「高根県における人材育成」については、指針を作成し、ラダーと連動した研修実施等の報告があり、「統括保健師の育成まで視野に入れたガイドラインは参考になった」②「広島市の災害時における体制整備と保健師の役割」については、4月に熊本地震が発生したため、急ぎよそれに関する報告となりました。受援と派遣両方の経験から課題に基づいた体制整備についてのまとめが報告され「平時から地域の状況と自分の役割を把握しておく必要があることを再認識した」③平成27年度の全国保健師長会研究事業であった山口県宇部市の「地区診断に基づくPDCAサイクルの実践モデル開発」については、事業を複数で担当する必要性や課題解決の手法について具体的な話があり、「若手の育成にいていねいに取り組んでおられ、すばらしい」等の感想がありました。

師活動の伝承について熱いお話がありました。

第2回研修会は、平成28年9月3日(土)、青森県看護協会保健師職能委員会との共同で「保健師のキャリアパスに関する学習会」を開催し、43名(会員29名、非会員14名)の参加がありました(写真1)。

日本看護協会常任理事の中板育美氏から「保健師のキャリアパス・キャリアアラダーについて考えてみよう」をテーマに「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会最終とりまとめ」「自治体保健師のキャリアアラダーが策定された背景と保健師に求められる能力について、さらにキャリアアラダーの活用は地域住民にも行政にも、WIN・WINの関係になることをめざし

研究報告では、地域包括ケアシステムは各自自治体で取り組む喫緊の課題で、市町と保健所の役割と連携、コーディネート力が大切であることが話され、旬な話題で参考になる点が多く、「保健師の役割を改めて認識できた」等の感想がありました。また、会の活動状況の展示やグループワークの前に「元氣が出る保健師マーチ」を笑顔で歌って雰囲気づくりを行ったことは大変好評でした(写真2)。

次に、支部長会ですが、当ブロックは9県1市の10支部で構成され、年2回、各支部活動を一覽でまとめ情報交換等を行っています。また他の支部で招いた研修会講師(医療機器の会社から「元氣が出る!人材・組織マネージメント」の講演)を紹介、「地区担当制を導入し実践している県の報告」「災害時の保健活動支援」の報告や課題提案、改善策等について具体的に意見交換ができ、今後の活動につな



写真2 活発な意見が交換されたグループワーク

ているとのお話がありました。

講演後の意見交換では、各自自治体のキャリアアラダーの現状と

問題点について話し合い、参加者から「どうしたら計画的に研修会に出られるのか」「キャリアアラダーを小さい町村はどのように活用すればよいのか」等の質問があり、国が提示した自治体保健師のキャリアアラダー、キャリアパスを各自自治体の人材育成計画に盛り込んでいくためには、まず、保健師自身が正しく理解し、事務職員や上司、さらに人事担当者にしっかり説明できる力量が求められていることを確認しました。

最後に、平成29年度は青森県支部が東北ブロック研修会の開催県となります。東北各県からたくさん参加者が得られるよう、また、当県の会員増の契機となるよう、魅力ある研修会をめざし、支部役員で検討しています。

(文責)青森県支部 山口久美子



写真1 第2回青森県支部研修会の様子

がる有意義な会となりました。

昼食会では、保健師どうしツーカーの関係で、奥深い情報交換となり話に花が咲きました。

(文責)中国・四国ブロック理事 亀井典子

## 全国保健師長会会員数の動向

全国保健師長会の会員数は年々増加しており、平成28年8月末現在の会員数は5331人で、昨年度より121人増加しました。会員数に占める各部会の内訳は、都道府県部会34・1%、指定都市等部会32・0%、市町村部会33・9%とほぼ同じ割合ですが、指定都市等部会および市町村部会の割合が少しずつ増加しております。

(文責)広報委員会

図 会員数の年次推移

